

Chorus Ohyama 合唱団おおやま

95年8月に旧大山町民を中心に結成。96年8月に第1回の「夏のメサイア」を公演。
以来、毎年夏にオーケストラとの共演による公演を重ね、今年が12回目の演奏会となる。
オーケストラ・アンサンブル金沢とは10回目の共演。
富山市大山文化会館で、毎週水曜日夜、練習を行っている。

合唱団では、団員を募集しています。練習見学歓迎します。
お問合せは富山市大山文化会館(076-483-0001)まで。
<http://ww2.ctt.ne.jp/~ohyama/>



ソプラノ 岩竹 幸絵 / 岩竹 李奈 / 伊井 乃里子 / 岡本 紀子 / 加藤 一美 / 武部 由貴美 / 谷崎 キミ子
谷崎 千鶴 / 谷崎 千紗 / 谷本 真理子 / 千葉 多恵 / 中川 律子 / 宮原 百合子 / 山崎 しのぶ

アルト 麻島 利子 / 稲垣 聖子 / 井上 澄子 / 大坪 穂 / 奥野 知子 / 加藤 結衣 / 片山 美富里 / 木村 まゆみ
小泉 康子 / 高木 茂子 / 仲井 葉子 / 長原 啓子 / 平崎 康子 / 藤川 未央 / 村椿 伸子

テノール 井内 学 / 伊東 康孝 / 大崎 晴夫 / 谷崎 修一 / 東海 廉之

バス 窪田 英史 / 小塩 靖 / 中村 諭 / 野入 豊光 / 野尻 芳邦 / 松井 輝 / 丸山 隆 / 宮元 美信

合唱指揮 内山 太一

武蔵野音楽大学声楽科卒 ミュンヘン国立音楽大学声楽科卒。シューベルトの三大歌曲集「美しき水車小屋の娘」「冬の旅」「白鳥の歌」等ドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。藤原歌劇団公園のオペラやメサイア、ベートーベン第九等数多くのコンサートに出演。NHKFM等ラジオ、テレビにも出演。1993年再度一年間ドイツに留学。これを機に故郷上市を拠点に演奏活動を展開している。合唱団おおやまの他、入善混声合唱団、入善コスモホール少年少女合唱団「くびと」、男声合唱団「ジョイフル・フレンズ」、黒部第九を歌う会、上市町子供の城児童合唱団、大地の会女声合唱団等の指導。元武蔵野音楽大学声楽科講師 元洗足学園魚津短期大学声楽科講師、声楽研究グループ 大地の会主宰

コレペティトゥーア 清水 香里

富山市生まれ。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学を卒業。米テキサスクリスチャン大学へ留学。帰国後、富山を中心にリサイタルやオーケストラとの共演など幅広い演奏活動を続けている。富山市在住の若手演奏家と“Pre-Virtuoso”を結成。また、富山市民文化事業団主催事業「億光年への響き」「アイダ2001」「お小夜」「チョン・ミョンフン指揮オペラ「カルメン」」「第九～歓喜の夕べ」や、新潟県糸魚川地域ニュー里創プラン「歌劇・奴奈川姫」、高岡文化ホール主催オペラ「フィガロの結婚」などに、コレペティトゥーアやピアノ、チェンバロ奏者として参加し、地域の文化振興の一翼を担っている。現在、桐朋学園子供のための音楽教室富山教室ピアノ科講師、富山県立高岡西高等学校非常勤講師、ピアノ教室主宰。

Orchestra Ensemble Kanazawa オーケストラ・アンサンブル金沢



1988年、音楽監督に岩城宏之氏(現、永久名誉音楽監督)を迎え、日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。世界中よりメンバーを公募し、多くの外国人を含む40名が在籍。2001年に開館した石川県立音楽堂を本拠地とし金沢はもとより東京・大阪・名古屋でも定期的に公演を開催し、これまでにヨーロッパ、アジア諸国を含む10度の海外公演を成功させている。2005年7月にはドイツ最大の音楽祭、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭に招聘され、高い評価を得た。また、設立時よりコンポーザー・イン・レジデンスを実施し現代音楽も積極的に演奏している。03年よりワーナーミュージック・ジャパンとの提携によるCDを次々と発表するなど、数多くのCDを制作。2007年1月より、指揮者の井上道義氏を新音楽監督を迎え、常に意欲的で新たな活動を展開。国内外で注目されているオーケストラである。

2007 Chorus Ohyama with Orchestra Ensemble Kanazawa

with オーケストラ・アンサンブル金沢 合唱団おおやま

とき／2007年8月26日(日) 13時30分開場 14時開演 ところ／富山市大山文化会館

主催／富山市富山市教育委員会・合唱団おおやま・財)石川県音楽文化振興事業団 共催／北日本新聞社 後援／FMとやま ©富山市の助成金により低料金で鑑賞できます。



1

管弦楽のための ディヴェルティメント

(外山雄三 作曲)

1 第1楽章 Allegro

2 第2楽章 Andante

3 第3楽章 Allegro

(曲目解説)

外山雄三(1931~)が1961年に作曲した作品。岩城宏之(オーケストラ・アンサンブル金沢の前音楽監督)の委嘱で岩城の欧州楽旅のために書かれた。第1楽章では「ドンバン節」「木曾節」、第2楽章では「ひえつき節」「会津磐梯山」など、日本民謡が全編にふんだんに使われている。ちなみに、ディヴェルティメントは日本語で「嬉遊曲」とも訳される。語源に「楽しい、面白い、気晴らし」という意味を持ち、明るく軽妙で楽しい曲風である。

2

ドイツの歌

1 ローレライ 作詞:ハインリヒ・ハイネ 作曲:F.ジルヒャー
訳詞:近藤朔風 編曲:榊原榮

2 乾杯の歌 (ドイツ民謡) 訳詞:不詳 編曲:榊原榮

3 別れ (ドイツ民謡) 訳詞:岡本敏明 編曲:榊原榮

4 流浪の民 作詞:エマニュエル・ガイベル 作曲:ロベルト・シューマン
訳詞:石倉小三郎 編曲:市川都志春

(曲目解説)

いずれも日本語の訳詞でよく歌われているなじみ深いドイツの歌を4曲お届けする。

- 1)「ローレライ」 ドイツのライン川中流によく船の沈む場所があり、それは「高い岩の上で魔女ローレライが歌う歌声に、船乗りが心奪われて岩にぶつかるからだ」という伝説がある。この伝説を題材にしたハイネの詩に付けられた曲の一つ。
- 2)「乾杯の歌」 昔、歌声喫茶でよく歌われた歌で、10数年前まで紅白歌合戦のオープニングに使われていた。行進曲風の陽気な歌である。
- 3)「別れ」 南ドイツの民謡を「ローレライ」の作曲家ジルヒャーが採譜したもので、歌詞はかなり方言色の強いドイツ語で書かれている。訳詞では、「さらばわが友」となっているが、原語は、恋人に対して「修行の旅に行ってくるから、帰ったら結婚しよう。」というような歌詞である。
- 4)「流浪の民」 原題は「ジプシーの生活」で、ジプシーの一夜の宿泊の様子を歌ったものである。ドイツの有名な詩人ガイベルの詩に、1840年、シューマンが曲をつけた。「ぶなの森の葉隠れに」で始まる日本語訳の4部合唱は、一時期日本の合唱の定番曲だった。ちなみに曲の中に出てくる「ニールの水」とはナイル川を意味する。

3

MAGNIFICAT JOHN RUTTER

マニフィカト (ジョン・ラター作曲)

1 Magnificat anima mea 私の魂は主を崇め

2 Of a Rose, a lovely Rose バラ、愛らしいバラ(15世紀の英詩)

3 Quia fecit mihi magna 私に大事を成させたなら

4 Et misericordia そして、憐れみは

5 Fecit potentiam 主は力をもって

6 Esurientes 飢えている人を

7 Gloria Patri 父に栄光あれ

(曲目解説)

マニフィカトは、カトリックの修行僧が毎日行う「聖務日課」の中の「晩課」(夕べの祈り)の主要部分であり、その最後を締めくくる曲である。このマニフィカトの詞は、新約聖書の「ルカによる福音書」の第1章に記されている。受胎告知を受けた聖母マリアが洗礼者ヨハネを身ごもっているエリザベトを訪れた際に、エリザベトから懐妊の祝福を受けて、マリアが述べた主をたたえる歌である。マニフィカトは古来多くの作曲家によって曲が作られているが、ジョン・ラター(1945~イギリス)のマニフィカト(1990)は、多用される変拍子、軽快なリズムと美しいメロディ、ジャズのテイストと、宗教曲と感じさせない、まるでミュージカルのような楽しい曲になっている。歌詞は通常すべてラテン語であるが、第2楽章に15世紀の英語の詩である「Of a Rose」が挿入されている。また、第3楽章の最後の「sanctus」、第7楽章のソプラノソロの「Sancta Maria」も、いずれも本来のマニフィカトにない歌詞である。



1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、(故)森正の各氏に師事。

1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。

1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝する。

1985年12月からヘルベルト・フォン・カラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントをつとめ、86年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急遽、急病のカラヤンの代役として、ジーンズ姿のまま「第9」を指揮し、話題となった。その成功以来、ザルツブルク・フینگステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約、以後、デンマーク放送交響楽団、ライナス交響楽団、ソングランド交響楽団などを指揮、着実にヨーロッパでの実績を重ね、1993年から1998年までヘルシンボリ交響楽団(スウェーデン)の首席客演指揮者をつとめた。1998、1999年と連続して、スウェーデンの名門、マルメ交響楽団の定期公演、1999年3月にはオークランド交響楽団(ニュージーランド)の定期公演に出演した。

日本国内では1988年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮してデビューを飾り、以後、国内の主要オーケストラに定期的に出演し、好評を得ている。NHK交響楽団の副指揮者(88年~95年)、オーケストラ・アンサンブル金沢のプリンシパル・ゲスト・コンダクター(91年~93年)、九州交響楽団の常任指揮者(96年~99年)をつとめた。現代作品の演奏にも定評があり、1996年日本音楽コンクール作曲部門の指揮において審査員特別賞を受賞した。

山下 一史(指揮) Kazufumi Yamashita, Conductor

大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウスでは2001年夏のモーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》公演の成功を機に、2002年4月よりオペラハウス管弦楽団常任指揮者に選ばれ、同年夏のモーツァルト《魔笛》公演、2003年にはレオンカヴァルロ《道化師》、モーツァルト《フィガロの結婚》、松村禎三《沈黙》、2004年、モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》、ベルク《ヴォツェック》、2005年、モーツァルト《コシ・ファン・トッテ》、2006年、モーツァルト《魔笛》公演はそれぞれ高い評価を得た。また、2005年秋には、新国立劇場より松村禎三《沈黙》公演が招待され、東京の音楽界にも衝撃を与えた。2006年4月からは仙台フィルハーモニー管弦楽団より指揮者として迎えられ、オペラ、オーケストラの両面においてますます注目を浴びている。



野上 聡子(ソプラノ) Satoko Nogami

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。オーバード・ホール主催公演でアンサンブルや合唱として多数参加する一方で、県内外で様々な演奏会に出演。ヴィヴァルディ「グローリア・ミサ」でソプラノリストを務めたことをきっかけに本格的に古楽の活動を開始。モンテヴェルディ・バロックオペラ「オルフェオ」エウリデーチェ役でオペラデビュー。(石川県立音楽堂邦楽ホール)

声楽を確井智子、溝口真知子、川下登、平井香織、波多野睦美、牧野正人各氏に師事。通奏低音を岩淵恵美子氏に師事。富山県音楽協会会員、富山県声楽家協会会員。

